

学び合い、高め合い、励まし合い、認め合う教育の追求

## 全国協同学習研究会会報 2006年度 4号

発行日：2007年3月10日

事務局

### 第38回全国協同学習研究大会報告

テーマ：共に学び 共に育つ

第38回全国協同学習研究大会が2007年2月16日に犬山市立犬山北小学校で開催されました。38回という回数に重みを感じます。

犬山北小学校は、先進的な（実はオーソドックスな）教育改革で有名な犬山市でも独自の発想で学校づくり、教育づくりを実践している学校です。この日も、研究大会でありながら、普段通り、毎日全校公開の方針に沿って朝の1時間目から参観可能という形で始まりました。指導案は3、4時間目のものが資料として配布され、2時間の間にすべての学級がその実践を発表しました。「学び合い」の手法を、協同学習の考え方に沿って実践する授業を基本に公開されました。若い教師の多い学校で、心地よい緊張感が感じられました。

参加者は、実践者、研究者がほぼ200名（範囲は東北から九州に及びました。東北からの参加者が例年になく多い傾向がありました）、犬山の教師が数十人、またこの学校は地域との連携をさまざまに図っているため、保護者の参観も非常に多く、さらには市内の保育士や行政からの参加も相当数見られました。総勢延べ500人ほどの参加にはなっただと思います。運営に保護者、地域の力が非常に大きく発揮されていました。

午後の講演では、犬山市教育長の瀬見井久氏による犬山の教育の方向について、本質を突いたそして共感できる話を聞くことができました。犬山は不易の教育を追求するのだという、教育再生会議の面々に聞かせたいような内容であったと感じます。

あわせて、犬山市では全国で唯一文科省が実施を図っている学力テスト不参加を表明しているのですが、教育委員会からその理由の説明会が付されました。オープンな意見交換もあり、またマスコミはこれが目当てで多数取材に来、ちょっと珍しい雰囲気ではありました（翌日の新聞では全国大会よりこのことがとりあげられて報道されていました）。

説明会や意見交換で少し時間をとられ、最後の分科会ではやや時間不足の感が否めませ

んでしたが、5分科会それぞれ2本ずつの実践報告がなされ、時間いっぱいまで充実した、そして終わったときに余韻の強く残る交流がなされました。

会場校の犬山市立犬山北小学校は、「特殊学級と地域の方との協同学習の試み」と題して、学校と地域のNPOとの連携で要支援児童の適応に積極的な成果を見出している事例を報告しました。名張市立つつじが丘小学校は、「学び合う人間関係を日常生活に生かしながら、主体的に学び続ける子どもの育成をめざす」と題して、仲間とのつながりを通して生きた言語力をつけていく実践を報告しました。

犬山市立羽黒小学校は、「心を合わせ、力を合わせ、共に学ぶ子の育成」と題して、総合的な学習の時間で「米づくり」をテーマに、特に伝え合う段階を重視した多様な実践を、工夫された学習ステップの紹介を加えて報告しました。野田市立山崎小学校は、「わかる喜びを味わえる算数科学習」と題して、「納得した喜び」に至る工夫を追求した算数科授業を、学び合いの活用を前提に組み立て、実践交流を図った事例を報告しました。

犬山市立犬山西小学校は、「ことばが心をつなぐ、未来を作る」と題して、学びの底力をつける要件としての国語力の育成に視点を置いた国語授業の試みを報告しました。特に単元単位での学びの見通しの重要性を強調していました。小松市立今江小学校は、「『やる気満々、のびのび表現』できる城山っ子をめざして」と題して、算数科に問題を絞り、学習・指導と評価の一体化を実現する事例を紹介しました。児童相互の係わり合いから生まれる意欲づけを大切にするという観点に立つものでした。

犬山市立城東中学校は、「豊かで潤いある学びの追究」と題して、質の高い学級集団、学習集団づくりに向けた学校の取り組みを紹介しました。道徳授業の進め方、グループワークトレーニングの導入など、特色ある内容を報告しました。野田市立南部中学校は、「実践から見てきたもの」と題して、学校としての協同的な学習理論の取り入れの過程と、教師集団の学習指導についての構えの変容を紹介しました。生徒の変容や教師のあり方など、豊かな論点が出されました。

犬山市立東部中学校では、「“学び合い”を活かす総合的な学習」と題して、3年間の学習計画の見通しのもとに実施された、生徒の協同を有機的に組み入れた総合学習でのグリーンマップ作りの実践を紹介しました。小松市立丸内中学校は、「確かな学力を育む指導の研究」と題して、学期単位の学習の見通しを持たせるシラバス集『学びくん』を作成、導入し、生徒が意欲的、主体的に学ぶ工夫を多様に加えた実践モデルを紹介しました。

この大会の交流をぜひ次の実践に生かして行っていただきたいと思います。

大会開催、運営にご努力いただいたすべての方々に感謝いたします。

来年度の会場は未定ですが、授業公開のある会場ということを前提に計画を立てています。

(杉江 修治)

# 物語る力、語り合う力を育てる授業の工夫

—「あたらしい看图作文」の提案—

鹿内 信善（北海道教育大学）

## 世界を理解する方法

私たちは世界を理解する方法を2つもっている。ひとつはセオリーである。自然科学や社会科学のセオリーは、私たちが世界を理解するための有効な道具となる。しかし、セオリーだけでは理解できない世界も、私たちはたくさんもっている。たとえば「生きる意味は何か」「人生の目的は何か」などの問題は、どんなに数式をいじってみても答えを引き出すことはできない。このような問題を含む世界を理解する方法がナラティブ（物語）である。神話や民話、小説などがこれにあたる。

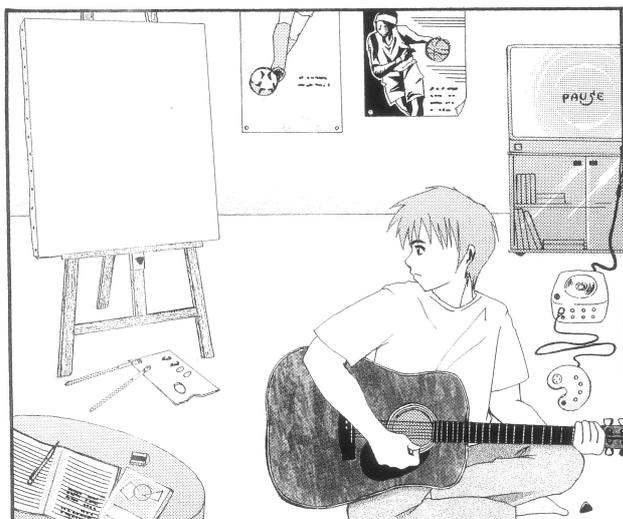
従来の学校教育はセオリーの学習に多くの時間を費やしてきた。しかし、物語ることによって世界を理解する能力（物語る力）を、学校教育はもっと育てていくべきではないだろうか。私はこれまでに、「物語る力」を育てる方法をいくつか提案してきた。そのひとつが看图作文である（鹿内 2003）。

看图作文とは、児童生徒に絵図を読み解かせ、その内容を文章にさせていく作文指導法である。看图作文は、もともとは中国の国語（語言）教育で盛んに行われている作文指導法である。しかし、私が提案しているのは、中国の看图作文そのものではない。中国の看图作文方式と認知心理学・臨床心理学の研究成果を総合した「あたらしい看图作文」である。

## どのようにして「物語る力」を育てるか

「あたらしい看图作文」を活用して「物語る力」を育てていくことができる。その具体例を見てみよう。

図1の絵図を見て、中学3年のAさんは次のことを読み取ってくれた。「勉強・絵・ゲーム…、何もかもやりっぱなし。→中途半端」「ちがうところを見ていて、今やっているギターにすら集中できていない。」「飽きっぽい人である。」「集中力がない。」「飽きたらすぐやめる。」このような断片的な読み解きは「物語る」



©yuki.ishida

ことによって、総合的な理解に高められていく。しかし、「この絵を見て物語を作ってください」と指示するだけでは、物語る活動を引き出すことはできない。何か工夫が必要になる。ひとつの工夫は、次のような指示を与えることである。「絵図と、そこから読み解いたことを使って、他人に何かを依頼する手紙を書いてください。」この指示を受けてAさんは、次のような文章をまとめてくれた。

作文例1（中学生A）

拝啓

冬なのに暖かい日が続いています。

〇さんはお変わりありませんか。

さて、私は最近何か心が貧しい気がします。今日は同封しました写真を〇さんに拝見していただき、ぜひ何かアドバイスをいただきたいと思い、お手紙を書きました。

最近は、絵を描いたり、勉強したり、バスケットをしたり…、なんだか何もかもが中途半端です。この写真を撮るときも、ギターになかなか集中できず、ちがう方向を向いてしまっています。

がんばりたいという気持ちは大きいのですが、今自分は何をしたらよいのか何に向いているのかまったくわかりません。ぜひ私の気持ちを整理するきっかけを与えてください。よろしくお願いします。

敬具

つまり、中学生のAさんは、図1の絵図から読み取ったことをこのようにまとめて物語ってくれたのである。

### 見る力も育てる

図1は絵図自体にも、工夫がひとつ施されている。その工夫について、次に解説していく。

まず、生徒たちに図1を見せて「この子（絵図中の少年）は向上心があると思いますか？」と質問する。すると、ほとんどの生徒は「向上心がない」と答えてくれる。「この子は向上心がない」という多数意見を確認した後で、次のように授業を進めていく。以下の事例は、私（鹿内）が高校の職業科クラスで行った授業の一部である。

T これ（サッカーの絵）は何していますか？

S1 ボール蹴ってる。

T ボール蹴ってる。そうですね。こういう風にボール蹴るの、なんて言いますか？

S2 〇〇君、サッカー部だ。

T じゃ〇〇君。

S3 ドリブル。

T そう。ドリブルですよ。じゃ、こっち（バスケットボールの絵）は何をしていますか？

S sドリブルだ

T そう、どっちもドリブルしてるんですね。ドリブルって、何のためにするんでしょう？

S 4移動する。

S 5前へ進む。

T そう。移動する、前へ進むんですね。この子は、2枚ともドリブルの絵を貼っています。ということは、

S s あっ、あー！

ここまで授業が進むと、絵図中の少年に対する理解が180度変化していく。「向上心がない」と思っていた子が、実は「前に進みたい」という願いをもっていたのである。図1は、物の見方を変えることの大切さを気づかせてくれる教材にもなる。

### 発見をもとに物語る

上述した発見をもとにして作文を書かせることもできる。ここでは、「書き出し」を与えて、続きを書かせた作文例を紹介する。次の作文例の口部分は、教師が与えた書き出しである。

#### 作文例2（中学生B）

（前の部分一部省略）

次の瞬間僕は突然ある事実に気がついた。

「ドリブル……。ドリブルはゴールへの前進だ。2枚のポスターは、相手チームの妨害を乗り越えて、ゴールへ向けてボールを運んでいるという点で同じなんだ。」

ポスターが僕に語りかける。「君は、君はどうなんだ？」

僕は、ポスターから目を背けた。雑然とした部屋が目に入った。ちらかった紙くず、机の上に投げ出されたノート、床に放られたゲーム機、広げられたキャンバス―僕と同じだ……。

今の僕はこの部屋と同じなんだ。すべてが中途半端で、ただただ、どうしようもないものだけが、何の目的もなく散らばっている。僕は途端に泣きたくなった。自分が一体、何のためにどこに向かっているのか、わからなくなってしまった。僕はすがるような気持ちで、再びポスターに目を向けた。

ひたと前を見つめて前進する彼らの姿がどうしようもなく眩しい。そんな彼らからあの声が聞こえた。「うまくできなくていいじゃないか。誰でも同じなんだ。ひとつずつ壁を乗り越えていかなければ、ゴールは見えない。」

僕は目を瞬いた。

―それは、僕が変わったあの日の出来事―

## 語り合う力を育てる

上に見てきたように、看図作文は「物語る」ことにより自己理解や他者理解を促進していく方法にもなる。さらに、図1のような絵図は、協同学習の材料としても活用できる。その一例を挙げておく。

たとえば、図1の絵図に題をつけてもらおう。そうすると、誰かが必ず「ニート」に関連した題を言ってくれる。そこから、次のような討論が生まれてくる。

「ニートって、そもそもどんな意味だっけ?」「バイトもしてなくて、仕事も探していない人のことでしょ。」「じゃさあ、ニートって収入ないんでしょう。だったら、こういう生活できないじゃない。」……

看図作文の授業は、語り合いの中で問題を見つけ、語り合うことによってそれを解決していく授業にもなる。私は今、小中高の先生方と協力しながら、「あたらしい看図作文」を協同学習の中に取り入れる方法の検討も進めている。

(注一図1は石田ゆき氏の作品である。作文例1・2は栗原裕一氏の授業で書いてもらったものである。両氏とも鹿内の共同研究者として、看図作文の絵図づくり・授業づくりに取り組んでいる。)

## 文 献

鹿内信善 2003 「やる気をひきだす看図作文の授業」 春風社

本稿筆者鹿内さんは、最近大著を出版されました。ぜひご覧ください。

## 「創造的読み」の支援方法に関する研究 風間書房

### 協同学習研究者ジョンソン兄弟の来日講演

2007年9月15日から文教大学で開催される日本教育心理学会での講演のために、協同学習研究で著名な Johnson 兄弟が来日します。日本協同教育学会がいくつかの企画を立てています。各地での講演も予定されており、次号に詳しいご案内をいたします。

なお、南山大学 (<http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/koen/index.html>) での講演はすでに案内が出ています。

日程：2007年9月12日 午後6時～8時

会場：南山大学D棟

講師：デイヴィッド・ジョンソン（通訳付き）

# 夜間定時制高校の現状と協同学習

服部保孝（愛知県立岡崎高等学校）

## 1. 定時制高校60年の歩み

昭和23年4月の「学校教育法」の施行とともに、勤労青少年が働きながら学ぶ場として定時制通信制教育が発足して今年で60年目を迎えます。定時制高校へ通う生徒数は昭和28年がピークでした。その年と平成18年を比較すると次の表のようになります。

昭和28年	16～18歳人口(A)	高校進学率	定時制高校生徒数(B)	B/A(%)
	534万人	50%	56.7万人	10.6
平成18年	高校生総数(A')	高校進学率	定時制高校生徒数(B')	B'/A'(%)
	368万人	98%	10.8万人	2.9

ピーク時に比べると、生徒数で5分の1、同世代の青少年に占める定時制高校生の割合はおおよそ3分の1に減少しています。（定時制高校は中学卒業後すぐに入学する生徒ばかりでなく20歳以上の生徒も少なくありません。B/Aは同世代の青少年に占めるおおよその割合です。）

生徒数が急減するとともに、生徒の質も大きな変化をしてきました。平成18年度の愛知県の定時制高校（名古屋市立と私学を除く）の入学生の状況は次の表の通りです。

	入学者	不登校	過年度卒	有職者（そのうち正社員）
夜間定時制(28校)	1051人	38%	33%	58%(6%)
昼間定時制(3校)	399人	49%	14%	36%(0%)

（注：不登校は中学2年3年で合計50日以上欠席した生徒です）

この表が示すように、夜間定時制高校や昼間定時制高校は、設立当初の勤労青少年の働きながら学ぶ場という役割に加えて、不登校の生徒や他の全日制の高校を中退した生徒が学びなおす場としての役割が大きなウェイトを占めるようになってきました。（このような人々のための学校として通信制高校もあります。平成18年度に通信制高校に通う生徒は全国で18.3万人です。）

このような状況に対応するために、岐阜県には朝・昼・夜の3部制の高校が2校できました。この2校で県下の定時制高校12校1853人の生徒の46%（846人）を占めています。また東京都立新宿山吹高校のような4部制で単位制無学年制の定時制課程に通信制課程と生涯学習講座を併設した学校も登場してきました。

## 2. 岡崎高校夜間定時制課程での取り組み

岡崎高校夜間定時制課程の入学定員は40名です。平成17年度は入学生37名、全校生徒108名でスタートしましたが、2月末には1年生は25名、全校生徒は93名となっていました。例年1年生で約30%が退学していきます。また卒業率は45%弱です。

1年生は入学当初の人数が多いのでA、Bの2学級に分けています。その結果、1年生から4年生までどの学級も20人前後の少人数学級となっています。

5年ほど前に杉江先生に出会い、それ以来、協同学習の研究会に参加したり、『学び合い、高め合う授業の創造』（杉江修治著 協同学習叢書4 一粒社）などの著書で読んだりしてきました。しかし当時は教育現場とは異なる職場に出向していたので、実践の機会がなく、学校に復帰したら協同学習の考え方を活用した授業をしてみたいと思っていました。

平成17年4月、岡崎高校夜間定時制課程に教頭として赴任しました。愛知県立の夜間定時制高校は教頭も少ないながら授業を担当します。私は2クラス展開している1年生の1クラスで数学を教えることになりました。少人数学級であり、定時制ならではの異年齢集団という構成は協同学習を実践するには適した場だと思い意気込んで授業を始めました。

授業の前半で私が例題を解説し、各自で問題に挑戦した後、3、4名のグループで教え合う。1年生の最初の単元は「場合の数」でした。ところが、準備したプリントに従って例題を解説して、「さあやってみよう」と言っても、その後に進むことができません。プリントに向かう生徒はクラスの3分の1、残りの3分の1はザワザワと騒ぎ始め、後の3分の1は何もせずに身をひそめている。とうとう「さあ、机をくっつけて教え合おう」と切り出せずに最初の授業が終わってしまいました。日がたつにしたがって、もうひとつ大きな問題に出会いました。授業に毎回出ているのはクラスの半分以下です。何人かの生徒が入れ替わり立ち代り欠席や遅刻をして、とても前回にやったことを前提に話をすることができないのです。さらに、学校に慣れるに従ってザワザワがひどくなり、注意すれば教室を出て行くか、キレてしまってますます大声で騒ぎだします。

少人数のグループをつくって学び合う基盤には「信頼に支えられた人間関係」が必要です。しかし過去9年間の学校生活の中で、友人関係や教師との関係、家では親子関係で傷を負ってきた多くの生徒達にとって初対面の隣の席の生徒とコミュニケーションをとることは苦手であり、教師という大人に従うことは屈辱であったのかもしれませんが。ここでキレてはいけないと何度も自分に言い聞かせて、まず、教師としての自分が彼らを否定しない信頼できる大人であることを示しながら、クラス内に小さな教え合うグループを作っていくことに取り組みました。

授業をする度に新しい発見があります。ある時は九九がスムーズに言えない生徒に出会い、またあるとき当てた生徒は2桁の足し算引き算が答えられない。岡崎高校のような規模の定時制高校では専任の教師は各教科1名しかいません。この年、数学の担当者が転勤で入れ替わったので、新しく来た先生と授業の度に教材を見直しながら進めていきました。

1学期の終盤から2学期の前半にかけて、ひとりふたりと生徒が学校から去っていきま

す。中学校までの義務教育では教室にいなくても進級していきますが、高校では欠課時数がある線を越すと留年です。そんな状況に陥った生徒には留年ではなく、ひとまず退学を勧めます。去っていく生徒に最後にかかる言葉は「しばらく社会でもまれて、学ぶ気持ちになったらまた受けなおしなさい。」です。(実際、毎年1、2人の生徒が受けなおします。)

こうしてザワザワ騒いでいた生徒が退学していく2学期の中頃、ようやく教室は落ち着いてきました。そして限られた何人かの間では「信頼に支えられた人間関係」が築けてきて、こちらから指示しなくても、自分の課題が終わったら教え合う雰囲気が出てきました。もちろん授業中に他事をする生徒は相変わらず減りませんが、他の生徒を邪魔するようなことは少なくなってきました。

1年目は試行錯誤で、学習計画を立てて生徒に明確な学習の課題を示すことはできませんでした。2年目の今年度は系統的な教材作りに取り組んでいます。まだ、学校全体を巻き込んで展開するには至っていませんが、生徒も職員も少人数の学校なので、いつのまにやら他の学年にも伝染したのか、授業はともかく、行事や部活動などにおいて協同して事にあたる場面が増えた気がします。

定時制高校の生徒の多くは、卒業後は就職という形で社会に出て行きます。入学する前には学校や社会にたいして不信感を持っていたりうまく適応できなかったりする生徒を、4年間でいかに「信頼に支えられた人間関係づくり」ができる社会人に育てていくのか。また、参加→協同→成就の過程で学習意欲をたかめようにも、参加の段階でドロップアウトしていく生徒をいかにして興味づけるのか。課題は山積みですが、学び合い高め合い、集団のメンバーがともに育つような学校づくりにこれからも粘り強く取り組んでいきたいと思えます。

## 日本協同教育学会第4回大会案内

時期：2007年8月4日(土)5日(日)

場所：常葉学園大学(静岡)

詳しくは次号でご連絡いたします。日本協同教育学会(<http://jasce.jp/>)、協同教育ネットワーク(<http://www.kyoudo-edunet.jp/>)のHPなどもご覧ください。

## 出版案内

小松市立丸内中学校著・杉江修治監修

『確かな学力を育む指導の研究：学ぶ意欲を高める授業をめざして』

(協同教育実践資料3) 日本協同教育学会刊

ご注文は XXXXXXXXXX まで。送料込み2500円です。

# 会務報告

## 1 2006年度事業報告

- 協同学習法ワークショップ(中級)開催 (2006年3月11・12日 南山大学)
- 会報の発行 (1号:6月30日、2号:9月10日、3号:12月8日、4号:3月10日)
- 第38回全国大会開催 (2007年2月16日) 於、犬山市立犬山北小学校
- 2006年度役員会 (2007年2月16日) 於、犬山市立犬山北小学校

## 2 2006年度会計(中間)報告(2007年1月末現在)

＜収入の部＞		＜支出の部＞	
前年度繰り越し	392918	事務局消耗品	4314
会費収入	78000	郵送料	33620
利子	13	大会開催援助費・振込手数料	100315
収入合計		470931	支出合計
138249			
現在残高		332682	

## 3 役員について

- 委員退任 平位 隆明氏 (姫路旭陽小学校)  
 長谷川貢一氏 (阿佐ヶ谷中学校)  
 小島 幸彦氏 (中津川市)

### 2007年度の役員体制

役職	氏名	所属	氏名	所属
会長	杉江 修治	中京大学		
常任委員	石田 裕久	(事務局長) 南山大学	伊藤 篤	神戸大学
	望月和三郎	東京都研究会事務局長	久保田 滋	芦屋大学
	丸山 正克	豊川市	加地 健	犬山犬山北小学校

	霜 和実	春日井高森台小学校		
委員	市川 千秋	皇學館大学	石田勢津子	名古屋外国語大学
	鹿内 信善	北海道教育大学	小石 寛文	神戸学院大学
	宇田 光	南山大学	関田 一彦	創価大学
	安永 悟	久留米大学	荒木 正志	練馬第三小学校
	塚水尾祐文	青梅市立泉中学校	田川 正樹	春日井西尾小学校
	今飯田 寛	春日井不二小学校	楓 正敏	中津川坂下中学校
	加藤 一哉	恵那市立北小学校	有本 高尉	犬山楽田小学校
	大関 健道	野田市教育委員会		
顧問	梶田 正巳	中部大学	前田 義夫	明石
	永井 辰夫	姫路	新田 正彦	広島
	荻原 克巳	春日井	池田 洋	尼崎
	西村 精爾	春日井	稲垣 菊夫	春日井
	今尾 啓一	春日井	松本 重雄	春日井
	岩田 鎮人	春日井	加藤 孝史	春日井
	阿部 吉一	春日井	有元 佐興	東京
	木村 幸夫	東京	越智 昭孝	広島
	林 典照	名古屋工業高校	長谷川貢一	阿佐ヶ谷中学
	寺井 正輝	春日井	堀場 正美	春日井
	後藤 東一	土岐	長縄 秀孝	春日井
	小島 幸彦	中津川市		

#### 4 2007 年度事業計画

- 会報の発行（年間 4 回）：会員の交流と協同学習情報の提供を図る
- 第 39 回全国大会の開催
- 2007 年度役員会の開催
- 協同学習ワークショップの開催

#### 6 2007 年度予算編成方針

- 会報の発行とそれに関わる郵送料。なお、e-mail が可能な会員にはメールによる配信をもって経費節減を図る
- 大会開催校への 10 万円の補助金支出
- 年度会費徴収への努力

## 7 第37回大会報告

○大会事務局より概要の報告（荒木正志氏）

## 8 第37回大会会計報告

○開催校より報告（練馬区立練馬第3小学校校長 荒木正志氏）

## 9 次期大会開催地について

○会場校未定（交渉中）

○期日未定

### 全国個集研岡山大会

2006年12月23、24の2日間に岡山市で「全国個を生かし集団を育てる学習研究協議会」の大会が開かれました。全国から260名を越す参加者が集まり、基礎講座、講演、実践交流の分科会などで、充実した催しとなりました。

詳しい内容は個集研HP（<http://ww6.enjoy.ne.jp/~juntendo4649/>）をご覧ください。

なお、次年度大会は2007年11月23、24日に愛媛県で開催されます。

### 事務局からのお願い

新しい年度に入りました。会員の方々には会費納入よろしく申し上げます。

1年分2000円です。昨年度未納の方は4000円の納入をお願いいたします。

郵便振替 □座番号：名古屋前山郵便局 00800-8-166589

□座名称：全国協同学習研究会

### 事務局からさらにひとつ：e-mailアドレスをお持ちの方へ

この会報並びに様々なご案内をe-mailで送ってもかまわないという会員の方々は、空メールで結構ですので事務局宛（XXXXXXXXXX）、アドレスをお教えてください。経費節減という事務局の勝手なお願いですが、ご協力いただければありがたく存じます。